

「海辺のマスタープラン2010」で進める市民参加の水際線づくり

喜洲淳哉（北九州市港湾空港局計画課）

北九州市の水際線延長は、全体で約210キロですが、その大部分が人工の護岸・岸壁で囲まれ、市民が容易には水辺に親しむことができないという状況でした。

このため、市民にみなとや海辺の魅力をもっと知っていただき、市民が水辺に手軽に親しめるように水際線を整備・開放していこうというのが、この「海辺のマスタープラン2010」です。

「さまざまなニーズに応える多様な水際線の利用を目指して」をコンセプトに、計画の数値目標として2010年までに水際線25キロメートルを市民に開放していくというものです。現在、計画目標の約半分まで整備が進んでいる状況です。

また、このマスタープランでは、2つの目標を挙げて整備を進めています。1つ目は、「メリハリのついた整備や利用」であり、2つ目の目標は、「市民参加による施設整備や利用の検討」です。以下に、2つの事例を紹介させていただきます。

1つ目の事例は、「風力発電事業の地元貢献を活用した海辺の賑わいづくり」です。北九州市の響灘地区では、平成13年12月に市所有地で風力発電事業を行う事業者の公募を行い、風車10基を建設して平成15年3月から風力発電事業を行っています。

事業者は市有地を賃借する際の条件として、地元貢献として市民が海辺で行う環境に関する諸活動を資金面で支援することとしており、北九州市では、この資金を活用した港や海辺の賑わいづくりを行っています。

まずは、「みなとや海辺の活動支援」です。この支援は、市民やNPOなどが北九州市の港や海辺で行う清掃などの環境美化活動や、ワークショップなどのまちづくり活動などの活動に対し、その活動費の一部を50万円を上限として助成するものです。平成16年度は6団体7件の活動を支援しました。平成17年度は、7団体7件の活動を支援しています。

次に「北九州市みなとや海辺の活動発表会」です。みなとや海辺でさまざまな市民活動を行う市民団体やNPO法人などが、各々の活動の成果を発表し、お互いの情報交換や交流を図るとともに、水際線の魅力を広くPRすることを目的に開催しています。平成16年度は、3月24日に北九州国際会議場で約200人の参加者のもと開催しました。

さらに、このような活動を表彰する仕組みとして、「北九州港みなとまちづくり大賞」という顕彰制度を創設しました。市民や企業が創意と工夫を活かした独自の取り組みで、北九州港の魅力アップに貢献した活動を表彰するもので、平成16年度は、自薦他薦を含めて35件の応募があり、学識者や市民代表などで構成する選考会で大賞1件、特別賞2件が選考されました。表彰式は3月24日の「みなとや海辺の活動発表会」の会場で行いました。

この1つ目の事例で紹介した取り組みのアイデアは、行政だけで考えたものではなく、市内で活動しているNPOの代表や大学の先生など12人で構成する「北九州市水際線利用協議会」(平成15年8月発足)で提案された意見を実現したものです。

2つ目の事例は、「市民参加によるムラサキイガイを用いた洞海湾の環境修復事業」です。

北九州市では、北九州市環境科学研究所が生分解性プラスチック製の特殊なロープを使いムラサキイガイによる水質浄化のシステム開発・研究取り組んでいます。(平成11年に特許取得)。平成14年1月には、この調査を本格的検証するために、環境修復施設(いかだ)を洞海湾に設置し、平成15年度からは、北九州市港湾空港局、九州地方整備局港湾空港部が参加して、ムラサキイガイを用いた環境修復技術の実用化に向けた検討を行っています。

ムラサキイガイをロープに定着させると、海水中の赤潮生物(植物プランクトン)を吸収して成長し、高い水質浄化能力を持ちます。また、ロープには様々な魚が集まり、ビオトープの効果がありません。さらに、その後ロープを回収し、窒素やリンを吸収したムラサキイガイとチップを混ぜて作る堆肥は、非常に良い堆肥になります。

実用化に向けた検討の成果の1つとして、このロープを市民ひとりに一本ずつ買っていただき、環境修復に参加する仕組みができるのではないかと発想から、市民がロープを垂下して、回収し、堆肥をつくる作業に参加する「マイロープ、マイ堆肥」が生まれました。

平成17年度には、この手法で地元小学校6年生45人と一緒に総合学習の時間を使って、環境体験学習教室に取り組んでいます。4月に、洞海湾の歴史や貝による水質浄化の事前学習を行い、4人1組1本のロープを垂下し、5月末には、貝の成長や生物の付き具合を経過観察し、7月に陸上に引き上げて、生物観察をした後、貝を潰して剪定チップと混ぜて堆肥化の作業を行いました。9月末には堆肥が完成し、堆肥を使ってイチゴの苗を植えて、子供たちは今、そのイチゴを一生懸命育てているという状況です。

今回、紹介させていただいた事例を含め、現在、北九州市で取り組んでいる市民参加の水際線づくりは、ソフトの取り組みが中心です。

新しい施設の整備を市民の参加で進める取り組みはこれからですが、市民が行う賑わいづくりの活動支援や港や海辺の魅力づくりの取り組みなどを続けていくことで、今までに整備された施設にもソフト面の機能をプラスしていくことで、このような市民利用の施設が本来あるべき姿に変わっていくのではないかと私は考えています。

「海辺のマスタープラン2010」で進める 市民参加の水際線づくり

Public Participation for Coastal Creation with Master Plan 2010

事例1: 風力発電事業の地元貢献を活用した海辺の賑わいづくり

響灘地区では、平成13年12月に市所有地で風力発電事業を行う事業者を公募・選定し、平成15年3月より、㈱エヌエスウインドパワーひびきが風車10基を建設し、風力発電事業を行っています。
 ㈱エヌエスウインドパワーひびきは、市所有地を賃貸する際の条件として、市民が海辺で行う環境に関する諸活動を資金面で支援することとしており、北九州市ではこの資金を活用したみなのや海辺の賑わいづくりを行っています。



みなのや海辺の活動支援

市民が北九州市のみなのや海辺で行う清掃などの環境美化活動やワークショップなどのまちづくり活動などの活動に対し、その活動費の一部を50万円を上限として助成しています。
 平成16年度
 応募活動: 8団体12件
 支援活動: 6団体7件
 平成17年度
 応募活動: 10団体11件
 支援活動: 7団体7件

平成17年度「みなのや海辺の活動支援」助成活動



活動名	団体名
1 海浜に自生するシバナ群の保全活動	九州共立大学工学部環境サイエンス学科
2 「海浜音楽」～「海浜博学」PART2	NPO法人北九州ピエトープ・ネットワーク研究会
3 北九州の近代港に於ける歴史情報の収集と整理	九州工業大学工学部建設社会工学科 景観工学まちづくり研究室
4 エネルギー未来北九州2005	自然エネルギー研究会
5 ペットボトルの船を海浜に浮かべよう!	NPO法人まのやのカルシウム工房
6 ピーチクリーンワークショップ2005	玄海ライフセービングシステムズ
7 関門宝物さがしウォーキングマップづくり	NPO法人九州キラキラみなのネットワーク

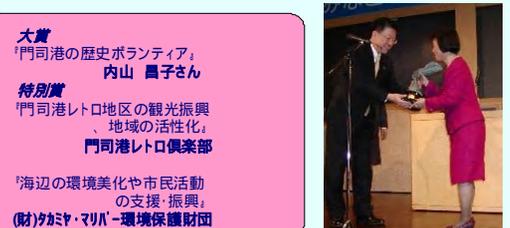
北九州港みなのや海辺の活動発表会



みなのやまちづくり大賞

市民や企業が創意と工夫を活かした独自の取り組みで、北九州港の魅力アップに貢献した活動を顕彰しています。
 平成16年度
 募集: 1月12日～2月10日
 応募: 35件
 選考: 学識者や市民代表などで構成する選考会
 表彰: 3月24日(木) 活動発表会場で表彰

北九州港みなのやまちづくり大賞



活動の目指すもの

北九州市は、周防灘、関門海峡、洞海湾、響灘の4つの海に囲まれ、約210km(このうち港湾区域は約170km)もの、全国でも有数の長い海岸線を持っています。しかし、市民が利用できる海辺はまだ限られています。このため、市民が手軽に港や海辺の魅力に親しめるように、平成14年2月、「海辺のマスタープラン2010」を策定し、北九州の海辺の特徴を活かした水際線づくりを推進しています。

マスタープランの基本方針

- コンセプト さまざまなニーズに応える多様な水際線の利用を目指して
- 数値目標 2010(H22)年までに25kmの水際線を市民に開放
- 目標1 メリハリのついた整備や利用、PR
 多くの人々が訪れ魅力あふれるウォーターフロント5箇所を「拠点エリア」、地域住民の生活の一部となる身近なウォーターフロント7箇所を「地域密着型エリア」として整備を行い、利用の促進を図ります。
- 目標2 市民参加による施設整備や利用の検討
 多くの市民に愛される魅力ある水際線づくりを進めるため、計画作りから整備、利用まで、様々な段階で市民参加を推進します。

活動場所について

周防灘、関門海峡、洞海湾、響灘の4つの海に囲まれ、長い海辺を持つ北九州市の水際線

活動期間、頻度について

平成6年5月 水際線の市民への開放を目指して、「市民に親しまれる水際線づくりマスタープラン」策定
 平成14年2月 多様化する市民ニーズに応えるため、マスタープランを見直し、「海辺のマスタープラン2010」策定
 「みなのや海辺の活動支援」、「みなのや海辺の活動発表会」、「みなのやまちづくり大賞」など1年間を通じて市民活動を支援し、みなのや海辺の賑わいづくりを行っています。

関係者について

北九州市港湾空港局、北九州市水際線利用協議会、北九州市環境科学研究所
 九州地方整備局港湾空港部、㈱エヌエスウインドパワーひびき、市内の大学、市民団体、NPOなど
 「北九州市水際線利用協議会」: 日頃からみなのや海辺をフィールドに活動するNPO法人の代表や学識者など12人で平成15年8月発足し、市民利用の視点で北九州市の水際線づくりにアドバイスや提言を行っています。

事例2: 市民参加によるムラサキイガイを用いた洞海湾の環境修復

洞海湾では、平成15～16年度に北九州市港湾空港局、環境科学研究所、九州地方整備局が共同でムラサキイガイを用いた環境修復技術の実用化に向けた実証実験を行い、市民参加で環境修復を行う手法(マイロープ・マイ堆肥)を開発しました。
 平成17年度は、この手法を使い、市内の小学校と総合学習の時間を利用した環境修復社会実験を実施しており、今後は、市民やNPOとの協働事業に広げていく予定です。

ムラサキイガイを用いた環境修復技術の概要

洞海湾の現状

かつて死の海といわれた洞海湾の水質は平成13年には環境基準を満たすまでに改善しています。
 しかし、未だ富栄養化の状態にあり、赤潮や貧酸素水塊の発生が課題です。

ムラサキイガイの水質浄化

洞海湾湾部の優先種、ムラサキイガイが持つ赤潮生物(植物プランクトン)を吸収する能力を使って水質浄化を行うものです。

環境修復技術の概要

洞海湾に設置した環境修復施設(浮島型の筏)で、2～5月に特殊加工した生分解性ロープ(1m)を垂下。ロープには貝の幼生が自然付着するため、成長を待つ8月に陸上に回収します。回収した貝は潰して、街路樹等の剪定枝チップと混合、発酵させ、良好な堆肥として活用します。

環境修復施設(筏)



垂下前のロープと回収後



ムラサキイガイの水質浄化能力

海水中チッソ取込量
 施設1㎡1時間当たり
 94.0mg-N/m²/hr
 (施設1㎡:ロープ3本、ムササギイガイ143kg)
 調査では、ムササギイガイは、アサリや底生藻類、干潟に比べ、高い水質浄化能力を持つことが判っています。

堆肥作製の流れ



小学生参加による環境修復社会実験の実施(H17年度)

マイロープ・マイ堆肥

マイロープ・マイ堆肥は、ムラサキイガイを用いた環境修復の仕組みに、生物観察や環境学習の要素を取り入れ、市民ひとりひとりが環境修復に楽しく取り組めるようにしたものです。

環境修復社会実験

H17年度は市内の小学校6年生45人を対象に総合学習の時間を利用して、マイロープ・マイ堆肥を使った「環境体験学習教室」を実施しています。
 今後は、市民やNPOとの協働事業へと広げていく予定です。



北九州市 港湾空港局 整備部計画課

(連絡先) 〒801-8555 福岡県北九州市門司区西海岸1丁目2番7号 TEL 093-321-5970 FAX 093-321-5915
 (インターネット) http://www.kitakyuport.or.jp/kowan_j/umibe/title.html

Maintenance Department Planning Section, Kitakyusyu Sea port and Airport Bureau

(Contact point) 1-2-7, Nishi-kaigan, Moji-ku, Kitakyushu, 801-8555, Japan Phone +81-93-321-5970 Facsimile +81-93-321-5915
 (Web page) http://www.kitakyuport.or.jp/kowan_j/umibe/title.html

